NIE実践報告

1．タイトル：魅力ある広告とは？－新聞広告の工夫を読み解こう－

2．学校名

宇都宮大学教育学部附属中学校

3．実践者名（代表者名）

栗原　理恵

4．学年

第１学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

美術・鑑賞（伝達のデザイン）　４０人

6．単元（本時の学習課題）名

題材名　「魅力ある広告とは？」　題　目　「新聞広告の工夫を読み解こう」

7．目標(狙い)

新聞広告における伝達のためのデザインの工夫に気づき、その効果についての自分の見方を明確にする。（鑑賞の能力）

8．評価の視点

新聞広告における伝達のためのデザインの工夫に気づき、その効果についての自分の見方を明確にしている。（鑑賞の能力）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「魅力ある広告とは？」伝達のデザインに関する学習［美術：１時間］

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①グループ毎に新聞広告を鑑賞し，読者の目を引く工夫を挙げる。
②様々なデザインの工夫によって，読者にどのような印象を与えているかを考える。
③他のグループの発表を聞き，自分の意見との共通点と相違点を確かめ，よいと感じた意見を自分の見方に取り入れる。
（留意点）
・過去の学習を振り返り，美術作品を鑑賞する視点を確かめさせる。
・いつもは情報を得るための手段として見ていた新聞を，伝達のためのデザインとして捉えさせる。
・１グループに４～５点の，タイプの違う新聞広告を使用させ，比較させる。
・２面見開きの広告だけでなく，記事と記事の間にある広告にも注目させる。
※生徒から出てくる意見として期待されるもの⇒文字の大きさを変えて，目立たせている。赤と黒だけを使って，赤い文字に注目させている。自然の写真を背景に使って，体に優しいことを強調している。等

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞は「情報」を得るための手段であると考えていたが，美術的な視点をもって見ると，その効果をよく考えてつくられていることが分かった。
・これからは，広告の見た目にだまされないようにみるようにしたい。

12．成果と課題

成果としては、新聞は日常生活の中に身近にある物なので，美術で学んだことを日常生活の中に生かしやすい題材となったことが挙げられる。課題としては，鑑賞に使用する広告の数を減らしてじっくり鑑賞させると，もっと多くの工夫点に気付かせることができたのではないかという点がある。